

青森の素晴らしい魅力と課題

日本銀行青森支店長 武藤 一郎



昨年6月に着任後、青森の四季を楽しんでいます。

昨夏は、青森ねぶた祭など3年ぶりの夏祭りを幸運にも観ることができました。秋には、八甲田山の素晴らしい紅葉や瑞々しいリンゴを堪能しました。冬には、美しい純白の雪に囲まれた酸ヶ湯温泉に浸ることができました。そして、例年より早い春を迎えると、各地で桜が咲いたと聞きつけ、十和田官庁街通り、八戸公園、合浦公園、そして弘前公園などを訪れ、咲き誇る桜に魅了されました。

四季の変化が明瞭で、各時期に応じた魅力を備える青森は、日本に住む醍醐味を感じさせる土地だと感じます。

その素晴らしい青森ですが、経済の面では、人口減少という大きな課題に直面しています。コロナ禍からの経済の持ち直しは続いています。働き手が急速に減少する当県では、人手不足の問題が特に深刻になっています。

人手不足を解消するには、人口減少を止めるか、少ない人手でまかなう経済にする必要があります。いずれの方向も大事ですが、企業経営者の立場で考えると、人口減少自体を止めることは難しいので、後者の方向を模索する必要があります。これには、労働生産性を高めるということが必要です。

日本銀行青森支店では、3月13日に特別レポートを公表



▲4月中旬、弘前公園の桜が満開になったと聞き、すぐに駆けつけました！

し、「県内企業における労働生産性向上に向けた取り組みと課題」について整理しました。ここでは、当方が着任後に県内の企業経営者の皆様からお伺いした、労働生産性向上の取り組みの事例をご紹介します。

具体的にはレポートをご覧いただければと思いますが、県内企業の中には、デジタル技術の活用も含めて様々なアイデアを考案し、少ない人手で付加価値額を維持・増大するよう取り組んでいる事例がみられます。そうした一つ一つの取り組みの積み重ねが、県経済にとって、とても重要なのだと思います。

青森の魅力は確実に存在します。それゆえに、青森県経済が課題を克服し、経済の面でもより豊かになっていくことを願っています。当方としては、これからも県内企業の皆様と意見交換し、積極的に情報発信するなど、

県経済の課題について、できる限りの取り組みをし、参りたいと思います。



▲特別レポートはこちらからご覧下さい

